

# 令和4年度 小学校国語科研究部会研究構想（案）

## 岐阜県小学校国語科研究部会の立場・役割

言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、日常生活で生きてはたらき、各教科の学習の基盤ともなる言語能力を高めていくことを目標として、県内の国語科学習について研究の方向を示す。

### 現状と今後の方向

児童が主体的に学ぶ国語科学習を目指して、児童が目的をもって「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」ができる言語活動を、単元を通して位置付けて実践してきた。このことにより、児童が課題解決に向けて言語能力を高めようと学ぶ姿が増えてきた。

今後は、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせ、言語活動を通して、付けたい力を確実に身に付けることができるように研究実践を行っていきたい。

### 成果と課題（全国学力・学習状況調査、県の学力・学習状況調査の結果から）

- 文章の要旨を捉えたり、優れた叙述に着目したりしながら、自分の考えをまとめる力が高まってきている。
- 目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えたり、描写に着目して読んだりする力が高まりつつある。
- 依然として、漢字や言葉の意味などの定着に弱さが見られる。特に、漢字の扱い方や意味のとらえ、言葉の言い換えについて弱さがみられる。
- 目的に応じて文章の内容を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力、及び自分の考えを書き表す力に弱さが見られる。

### 研究テーマ

## 生きてはたらく言語能力を高める国語科学習

—楽しくて、力がつく言語活動の工夫—

### 研究調査委員会

「話すこと・聞くこと」部会

「書くこと」部会

「読むこと」部会

「言葉」部会

### 研究視点

(1) 単元について	(2) 単位時間の学習過程について	(3) 国語科の学び方を身につける学習集団づくりについて
①単元で付けたい力に即した言語活動の工夫 ②単元を通して、課題意識の連続性がある言語活動の位置付け ③言語活動を通して、児童に付けたい力を付ける単元構成の工夫	①単位時間の付けたい力を明確にした展開の工夫 ②本時の付けたい力に迫るための有効な指導方法、指導・援助の工夫 ③児童が、自己の高まりを自覚できたり、言語の主体的な使い手として自信を付けたりする終末の工夫	【例】 ○発達の段階に応じた学び方の工夫（話し方、聞き方、話し合いの仕方 など） ○学校独自の取組の工夫（漢字検定、ことわざ検定、帯学習の工夫 など） ○国語科の学習を支える家庭学習の工夫 など